

実施日：7月11日（5校時）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名： ネット上の文字によるコミュニケーションを考える （「文字によるコミュニケーション」『スマホ世代の子どものための主体的・対話的で深い学びにむかう 情報モラルの授業』（日本標準））	
対 象： 1・2・3年生	実施場所：各教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> 文字によるコミュニケーションによって生じる「ネットいじめ」について、生徒同士で検討させる。 ネットワーク社会を生きる一員として、相手を意識した文字によるコミュニケーションを心がける態度を養う。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ネット上のコミュニケーションの良い点と悪い点について班で考え、発表させる。簡単にやり取りできることは便利である反面、やり取りそのものが気になるという悪い点も持ち合わせていることを確認する。 LINEのスライドを見て、発言者の真意を考えさせる。次に、文字で気持ちを正しく伝えるにはどのような表現がいいか考えさせる。SNS上のコミュニケーションも、直接話す時と同様に、相手に正しく伝わっているかを意識しながら、やり取りすることの大切さを確認する。 表現の異なる、同内容の「グループはずし」のLINEのスライドを2事例見て、いじめかいいじめではないかをそれぞれ考えさせる。「グループはずし」をされた相手の気持ちを推測させ、表現や口調は違っても、「グループはずし」はいじめに当たることに気づかせる。 人によって「いじめ」の受け止め方は異なること、また、ネット上の文字によるコミュニケーションの履歴は記録として残り、他の人も読む可能性があることを確認する。 よりよい人間関係を構築するためには、どのような考え方や配慮が必要かを考えさせる。 	
ウ 連携先：兵庫県警、小学校、家庭	
エ 連携にむけての取組 <p>7月10日に「サイバー犯罪被害防止教室」（兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課による講演）を開催。小学校の関係教員と保護者に案内を配布し、参加を呼びかけた。</p>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ネット・スマホの現状や扱い方等、専門的な内容は「サイバー犯罪被害防止教室」で教師も共に学び、情報モラルに関することは本授業で指導を行った。 日頃から生徒間で情報モラルの話題が出せるように、班活動を取り入れた。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> 班での話し合い 発表 ワークシート、感想 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の感想から、文字で真意を伝えることの難しさや、悪口を書かなくても「グループはずし」はいじめであることなど、新たな気づきにつながったと思われる感想が多く見られた。 県警の講演に触発され、ネットトラブルについて教師に相談した生徒がいた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> 表現や口調が違えば、LINE上で「グループはずし」をしていても「いじめではない」と感じている生徒が多かった。人権感覚を向上させるための取組を繰り返し行う必要がある。 6月にネットトラブルが数件起こった。来年度は、新たなライングループができる4・5月の早い段階で授業や講演を実施し、未然防止につなげていく。 	